

本邦「呼吸器系の結核」年令階級別死亡率性比の研究

東京女子医科大学衛生学教室 (主任 吉岡博人教授)

明 石 み 代
アカ シ ヲ

(受付 昭和30年10月7日)

緒 言

さきの研究⁸⁾において著者は「全結核」および「臓器別結核」死亡率性比の年次の観察を全年令について行ない、ついで「全結核」死亡率性比を年令階級別に分析した⁹⁾。さらにこれを臓器別に分析したい。本報ではそのうち、「呼吸器系の結核」(死因番号: 明治32~41年12, 明治42~昭和7年中分類13, 昭和8~18年小分類23, 昭和22~24年13, 昭和25~30年基本分類001~008)の年令階級別死亡率とその性比の年次の推移を観察する。

資料および研究方法

資料: 先報⁸⁾と同じ。

研究方法: 明治32年より昭和30年にいたる57年間より国勢調査年度における「呼吸器系の結核」死亡率を性別および年令5才階級別に求め、ついでこれの性比を算出し、両者の年次の推移を観察した。

$$\text{性比} = (\text{男子死亡率} / \text{女子死亡率}) \times 100$$

研究の結果

I. 「呼吸器系の結核」性別年令階級別死亡率および死亡率性比の年次の推移

1. 0~4才 (第1図, 末尾の付表, 以下同様)

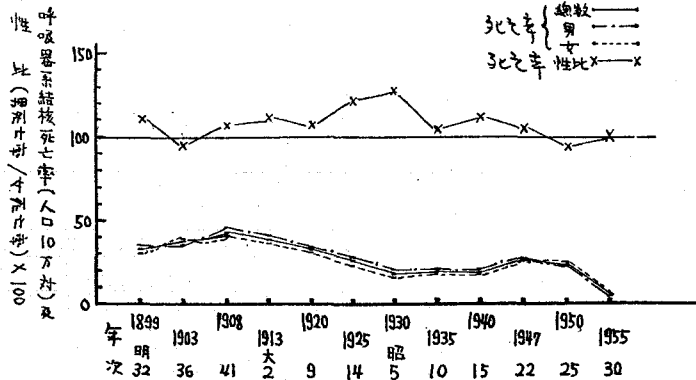
死亡率(人口10万対, 以下同様)は明治32年に男34.6, 女30.4で男子が高い。以後男女ともに上昇し, 明治41年に男45.1, 女41.7で全期間中の最高値を示す。以後男子は昭和22年の一時上昇以外は年次的に下降し, 女子は昭和10年および同22年の上昇以外は年次的に下降する。

性比は明治36年と昭和25年に100以下を示すが, 他は100以上で経過する。昭和5年に最高値127.5を示すが, この年は死亡率下降が著明である。死亡率上昇の時は性比下降し, 死亡率下降の時は性比上昇の傾向を示すが, 昭和25年のみは特に男子死亡率が著明に下降し, 女子の下降がこれに伴なわぬために, 性比は下降する。

2. 5~9才 (第2図)

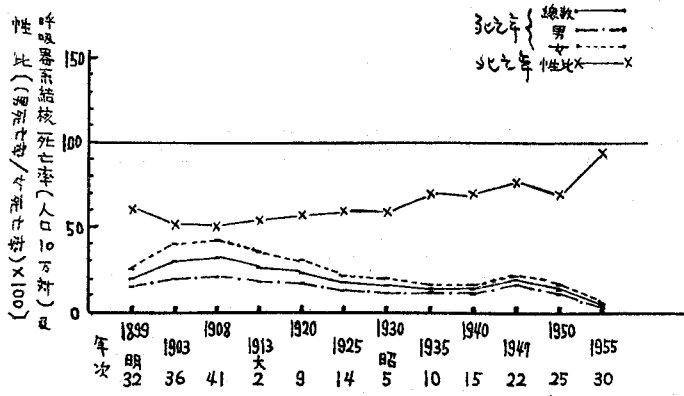
死亡率は明治32年に男16.0, 女26.5で女子が男子の1.6倍強高い。以後男女ともに上昇し, 明治41年に全期間中の最高値男21.7, 女42.9を示す。以後男女ともに昭和22年の一時上昇以外は順調に下降する。

性比は終始非常に低い。明治41年まで下降して全期間中の最低値50.6を示す。以後は死亡率下降に逆行して性

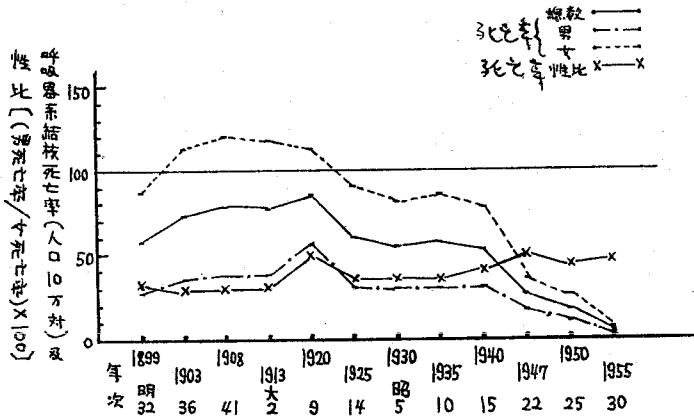


第1図 「呼吸器系の結核」性別年令階級別死亡率及死亡率性比 (0~4才)

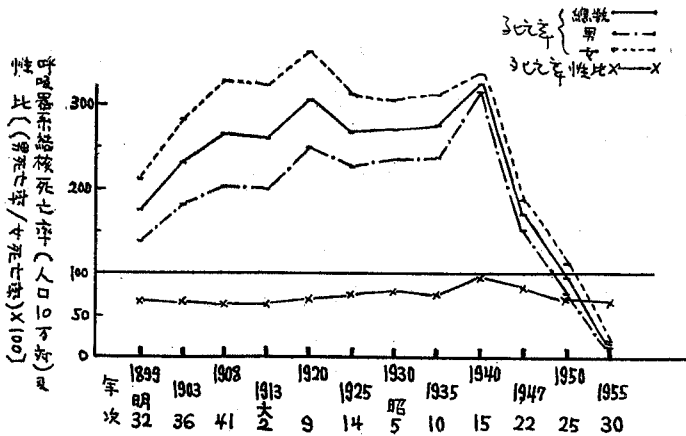
Miyo AKASHI (Department of Hygiene, Tokyo Women's Medical College): Studies on the sex ratio of age specific death-rates from tuberculosis of respiratory organs in Japan.



第2図 「呼吸器系の結核」性別年令階級別死亡率及死亡率性比(5~9才)



第3図 「呼吸器系の結核」性別年令階級別死亡率及死亡率性比(10~14才)



第4図 「呼吸器系の結核」性別年令階級別死亡率及死亡率性比(15~19才)

比は年次的に上昇するが、100を越えることはない。

3. 10~14才 (第3図)

死亡率は明治32年に男28.5, 女86.9で女子は男子の3倍強高い。以後男女ともに年次的に上昇し, 男子は大正9年に全期間中の最高値56.0を示し, 女子は明治41年に最高値119.6を示す。以後は昭和10年の女子の上昇以外は, 男女ともに年次的に下降する。

性比は死亡率に逆行し, 明治41年に全期間中の最低値31.1を示し, 以後上昇して大正9年に全期間中の最高値49.2を示す。以後死亡率とともに下降するが, 昭和15年より同22年までは死亡率に逆行して上昇する。以後は昭和25年に一時下降して後は死亡率に逆行して上昇する。この年令階級の性比は全年令階級中で最も低く, 全期間を通じて50の線以下である。

4. 15~19才 (第4図)

死亡率は明治32年に男138.3, 女209.9で女子は男子の1.5倍高い。以後男女ともに大正9年まで上昇し, 女子は全期間中の最高値361.5を示す。以後男子は大正14年に一時下降の後, 女子は昭和5年まで下降の後, ともに昭和15年まで上昇する。昭和15年に男子は全期間中の最高値314.9を示す。以後男女ともに急下降する。

性比は死亡率に逆行して下降し, 明治41年に全期間中の最低値61.5を示し, 以後は死亡率の昇降にかかわらず年次的に性比上昇して, 昭和15年に最高値93.5を示す。以後は死亡率に平行して下降するが, 全期間を通じて性比は100の線以下である。

5. 20~24才 (第5図)

死亡率は明治32年に男217.9, 女237.0で女子が僅かに

高い。以後男女ともに大正9年まで上昇し, 女子は全期間中の最高値359.6を示す。以後男女ともに大正14年に一時下降して後は昭和15年まで上昇して, 男子は最高値573.4を示す。以後男女ともに年次的に急下降する。

性比は死亡率に逆行して明治41年まで下降して後は死亡率に平行して上昇し, 大正14年に始めて100を越え, さらに上昇して男子死亡率の急上昇した昭和15年に全期間中の最高値165.8を示す。以後死亡率とともに下降して, 昭和30年に再び100以下に降り全期間中の最低値87.8を示す。

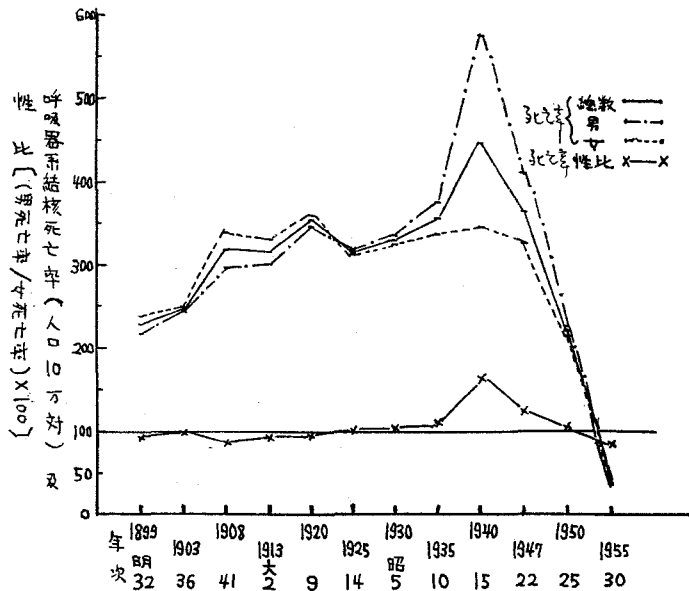
6. 25~29才 (第6図)

死亡率は明治32年に男193.9, 女221.5で女子は男子の1.1倍強高い。以後男子は明治41年に一時下降の後大正9年まで上昇し, 女子は大正9年まで上昇して全期間中の最高値300.4を示す。以後男女ともに大正14年に一時下降の後昭和22年まで上昇して, 男子は全期間中の最高値413.5を示す。以後は男女ともに急下降する。

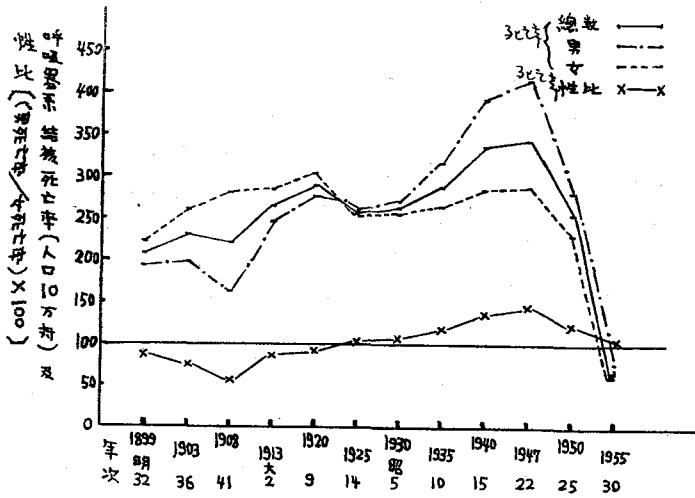
性比は明治41年まで下降して全期間中の最低値57.9を示す。以後死亡率の昇降にかかわらず性比は上昇し, 大正14年に始めて100を越え, さらに上昇して昭和22年に最高値143.8を示す。以後は死亡率とともに下降するが100を割ることはない。

7. 30~34才 (第7図)

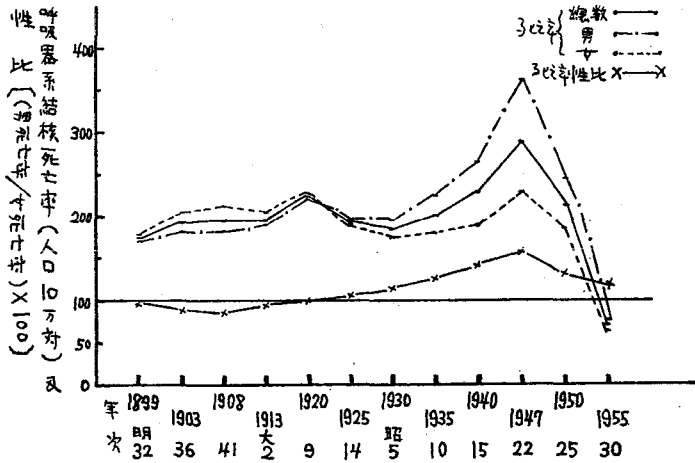
死亡率は明治32年に男171.0, 女177.2で, 女子が僅かに高い。以後男女ともに大正9年まで上昇して後, 女子は昭和5年まで下降するが, 男子は大正14年に僅かに下降するのみでただちに上昇する。昭和22年に男363.1, 女229.8で, 男女ともに全期間中の最高値を示し, 以後は



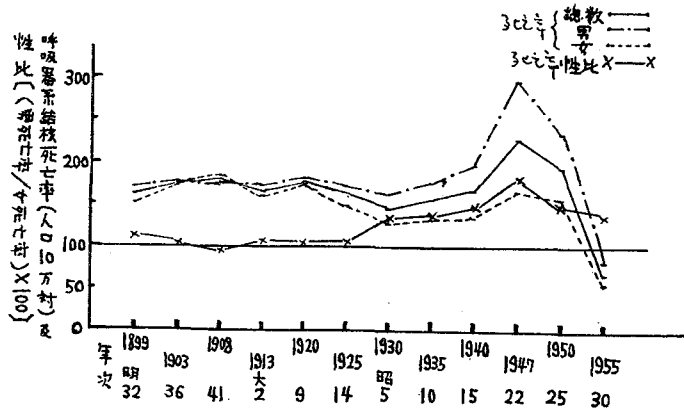
第5図 「呼吸器系の結核」性別年令別階級死亡率及死亡率性比 (20~24才)



第6図 「呼吸器系の結核」性別年齢階級別死亡率
及死亡率性比(25~29才)



第7図 「呼吸器系の結核」性別年齢階級別死亡率
及死亡率性比(30~34才)



第8図 「呼吸器系の結核」性別年齢階級別死亡率
及死亡率性比(35~39才)

男女ともに急下降する。

性比は明治41年まで下降して全期間中の最低値86.3を示す。以後は死亡率の昇降にかかわらず上昇して大正14年に始めて100を越え、さらに上昇して昭和22年に最高値158.0を示す。以後は死亡率に平行して下降するが100を割ることはない。

8. 35~39才 (第8図)

死亡率は明治32年に男169.3, 女151.9で, 男子が女子の1.1倍強高い。以後男女ともに上昇するが, 女子は明治41年に全期間中の最高値181.5を示し, 大正2年に男女ともに一時下降して後, 同9年に上昇する。以後男女ともに昭和5年まで下降し, ついで昭和22年まで上昇して, 男子は最高値298.5を示す。以後は男女ともに急下降する。

性比は死亡率に逆行して明治41年まで下降して全期間中の最低値96.0を示す。性比100以下を示すのは全期間を通じてこの年のみである。以後多少の起伏はあるが上昇しつつけて昭和22年に最高値181.2を示す。以後は死亡率とともに下降する。

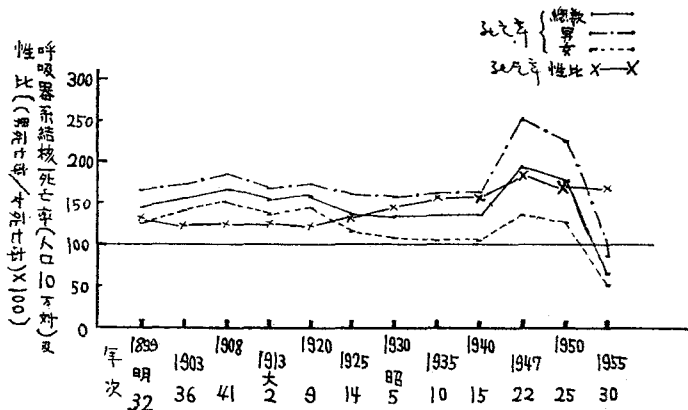
9. 40~44才 (第9図)

死亡率は明治32年に男164.2, 女125.4で, 男子が女子の1.3倍強高い。以後男女ともに上昇し, 女子は明治41年に全期間中の最高値149.5を示す。大正2年に男女ともに一時下降の後同9年に上昇する。以後男子は昭和5年まで女子は同10年まで下降の後上昇し, 昭和22年に男子は最高値248.6を示す。以後は男女ともに下降する。この年令階級では終始男子死亡率が女子死亡率よりも高い。

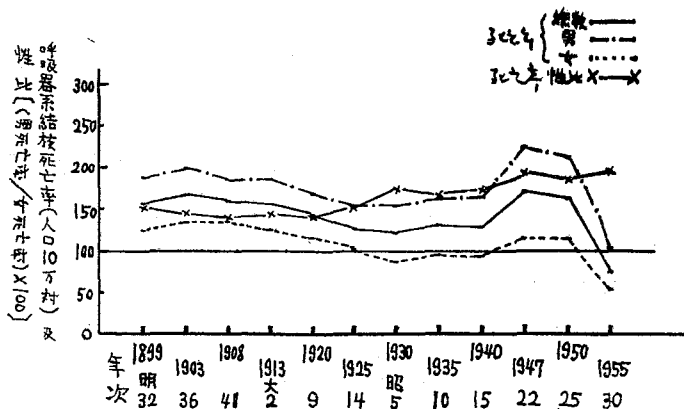
性比は始めより130を越えて高く, 明治36年に一時下降するが, 以後大正2年まで上昇する。大正9年に下降して全期間中の最低値119.9を示して後は, 死亡率昇降に関係なく昭和22年184.8まで上昇し, 全期間中の最高値を示す。以後は死亡率とともに下降するが150以上にとどまる。

10. 45~49才 (第10図)

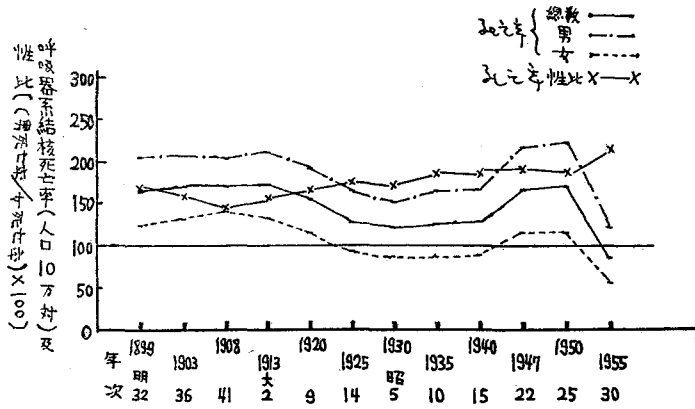
死亡率は明治32年に男188.2, 女124.4で, 男子が女子の1.5倍強高い。明治36年に男女ともに上昇し, 女子は全期間中の最高値135.2を示す。以後多少の起伏はあるが



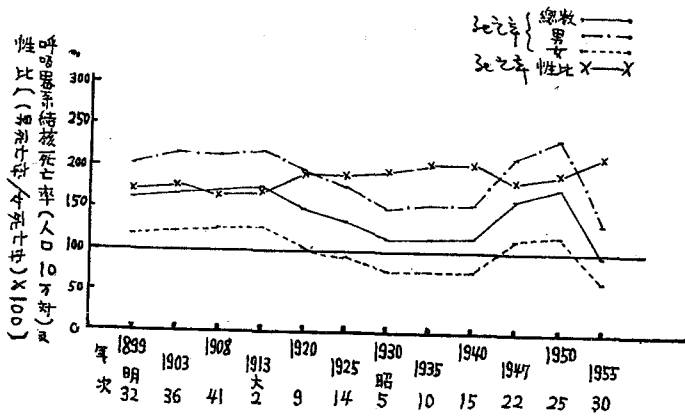
第9図 「呼吸器系の結核」性別年令階級別死亡率及死亡率性比 (40~44才)



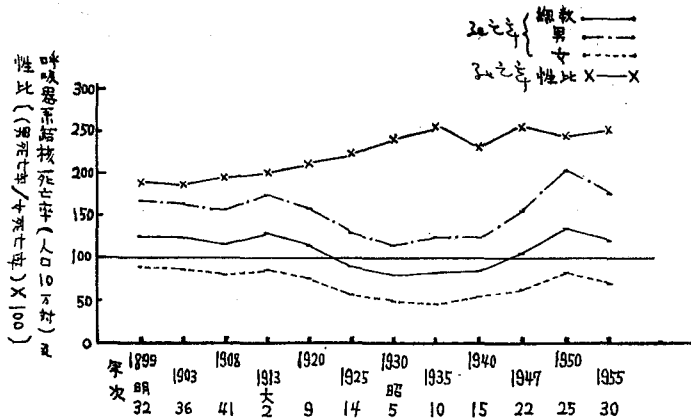
第10図 「呼吸器系の結核」性別年令階級別死亡率及死亡率性比 (45~49才)



第11図 「呼吸器系の結核」性別年令階級別死亡率及死亡率性比(50~54才)



第12図 「呼吸器系の結核」性別年令階級別死亡率及死亡率性比(55~59才)



第13図 「呼吸器系の結核」性別年令階級別死亡率及死亡率性比(60才以上)

男女ともに昭和5年まで下降の後上昇して、男子は昭和22年に最高値225.5を示す。以後は男女ともに下降する。この年令階級では男子死亡率が女子死亡率よりも終始著明に高い。

性比は始めより150を越えて高く、ついで死亡率に逆行して下降し、明治41年に全期間中の最低値136.5を示す。以後は多少の起伏はあるが昭和5年まで死亡率に逆行し、以後平行して同22年まで上昇する。昭和25年に一時下降するが、昭和30年には死亡率に逆行して上昇し、全期間中の最高値196.7を示す。

11. 50～54才 (第11図)

死亡率は明治32年に男202.7、女123.1で、男子は女子の1.6倍強高い。以後女子は明治41年まで上昇して全期間中の最高値140.0を示し、男子は明治36年に上昇の後、同41年に下降する。ついで男子は大正2年に上昇の後、昭和5年まで下降し、女子は昭和10年まで下降する。以後は男女ともに昭和25年まで上昇して後急下降する。昭和25年に男子は最高値220.7を示す。この年令階級では男子死亡率は女子死亡率よりも終始著明に高く、昭和30年には男子は女子の2倍を越える。

性比は始めより160以上で著明に高く、死亡率に逆行して下降し明治41年に全期間中の最低値144.4を示す。性比150以下を示すのは全期間中でこの年のみである。以後は死亡率昇降に関係なく上昇しつづけて、昭和30年に全期間中の最高値216.5を示す。

12. 55～59才 (第12図)

死亡率は明治32年に男201.2、女118.3で、男子は女子の1.7倍強高い。以後男女ともに大正2年まで上昇し、女子は全期間中の最高値128.8を示す。以後は男女ともに昭和5年まで下降し、ついで同25年まで上昇して後急下降する。昭和25年に男子は全期間中の最高値237.0を示す。この年令階級では男子死亡率は女子死亡率よりも終始著明に高く、昭和30年には男子は女子の2.2倍に近づく。性比は始めより170以上で著明に高く、明治36年に一時上昇の後には死亡率に逆行して下降し、明治41年に全期間中の最低値166.2を示す。以後は死亡率昇降に関係なく上昇して、昭和10年に200を越える。昭和22年の一時下降以外は上昇しつづけて、昭和30年に全期間中の最高値218.7を示す。

13. 60才以上 (第13図)

死亡率は明治32年に男168.8、女89.0で女子は全期間中の最高値を示し、男子は女子の1.9倍弱高い。以後男女ともに明治41年まで下降し、大正2年に一時上昇の後、男子は昭和5年まで、女子は同10年まで下降する。ついで男女ともに昭和25年まで上昇の後下降する。昭和25年に男子は全期間中の最高値202.8を示す。この年令階級では男子死亡率は女子死亡率よりも終始著明に高く、明治年代は2倍弱を示し、大正年代に2倍を越え、昭和

10年に2.5倍を越える。

性比は始めより190近くで著明に高く、明治36年に下降して全期間中の最低値187.6を示す。以後は死亡率昇降に関係なく上昇して、大正2年に200を越え、昭和10年に250を越えて全期間中の最高値256.2を示す。以後多少の昇降はあるが昭和30年には250以上を示す。この年令階級は終始他の年令階級より著明に高い。

Ⅱ. 「呼吸器系の結核」年令階級別死亡率性比の相互比較

つぎに「呼吸器系の結核」年令階級別死亡率性比の相互比較のために、各年令階級別死亡率性比の年次変化を同一図上に描いて検討したい。

性比100の線を越えたことがあるが近年再び100以下にもどるもの、および100以下に位する0～24才を一括して第14図aに、これに反し性比100以下であつたのはわずかの期間でおおむね100の線をはるかに越える25才以上を一括して第14図bに示した。

a. 0～24才 (第14図a)

死亡率性比が比較的低い24才以下の年令階級のうちに、0～4才では明治41年より昭和22年までは性比が100より高く、かつ明治41年より昭和5年までは25才未満の階級では最も高性比を示すが、昭和10年以降は20～24才の性比が急騰するのでこれより低く、戦後は100以下に下降する。

20～24才では大正9年までは100以下で経過し、大正14年に100を越え昭和15年に急上昇するが、以後は急角度で下降して昭和30年に再び100以下となる。

5～9才、15～19才では近似の経過をとり、終始100以下でかつ0～4才、20～24才より低い。

10～14才では他の年令階級よりとくにはなれて低く、終始性比50以下で経過しその昇降の幅も少ない。

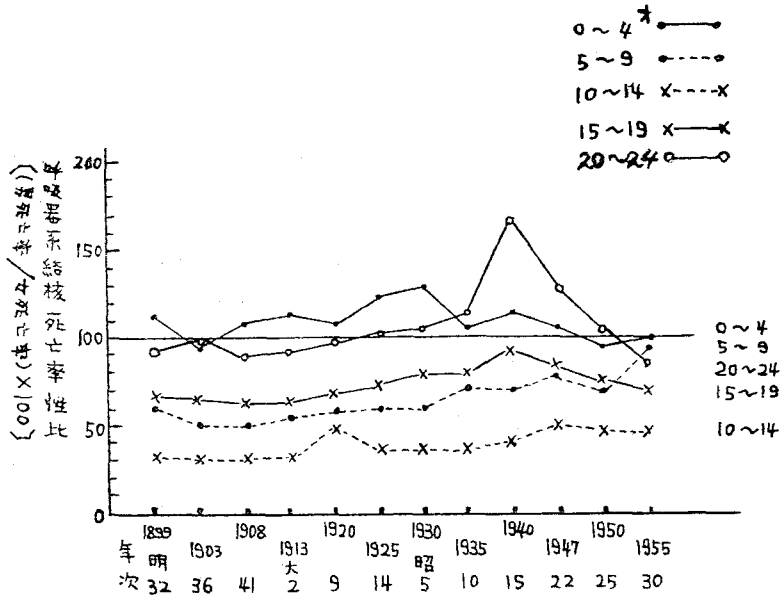
b. 25才以上 (第14図b)

死亡率性比がおおむね100以上に位する25才以上の年令階級のうちに、25～29才、30～34才の階級は大正末期まで100以下で経過し、大正14年に始めて100の線を越えるが、以後は100以下に下降することはない。

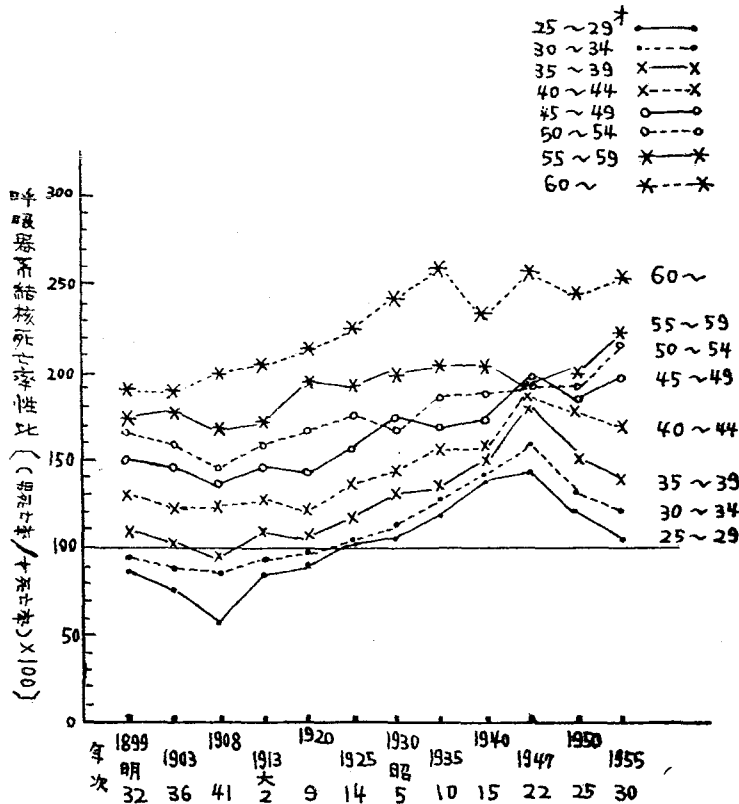
25～29、30～34、35～39、40～44才の4階級ではその昇降の角度は近似し、年令階級上昇に従つて性比曲線が上位に位置する。また戦後に性比が下降曲線を示すのはこれら4階級のみである。

45～49、50～54、55～59才の3階級ではいずれも終始100の線よりはるかに高くおおむね角度近似の経過をとり、しかも高年令階級ほど高性比を示し、かつ戦後も上昇傾向を示す。45～49才ではおおむね性比150以上を示し、50～54才では200の線に近く、55～59才では200前後で経過する。

60才以上では他の年令階よりとくにはなれて高く、その上昇角度はゆるやかであるが終始上昇線を描き、昭和



第14図 a 「呼吸器系の結核」年齢階級別死亡率性比 (0~24才)



第14図 b 「呼吸器系の結核」年齢階級別死亡率性比 (25才以上)

和10年以降はおおむね250の線を越える。

総合的考察および結論

明治32年より昭和30年にいたる57年間より、国勢調査年度における「呼吸器系の結核」性別死亡率および死亡

率性比を、各年齢5才階級別に観察した結果を総合すればつぎのことが看取される。

I. 「呼吸器系の結核」性別年齢階級別死亡率

1. 0~4才では死亡率上昇による峰は著明ではな

い。第1峰は明治41年、第2峰は昭和22年で第1峰が第2峰より高い。しかしておおむね男子死亡率が女子より高い。

2. 5～9才では死亡率上昇による峰は著明ではない。第1峰は明治41年、第2峰は昭和22年で第1峰が第2峰より高い。しかして終始女子死亡率が男子より高い。

3. 10～14才では死亡率上昇による第1峰は男子は大正9年で、女子は明治41年より大正9年までつづき、第2峰は男子は明らかでなく、女子は昭和10年で、第1峰が第2峰より高い。しかして終始女子死亡率が男子より高い。

4. 15～19才では死亡率上昇による第1峰は大正9年、第2峰は昭和15年で、男子は第2峰が第1峰より高く、女子は第1峰が第2峰より高い。しかして終始女子死亡率が男子より高い。

5. 20～24才では死亡率上昇による第1峰は大正9年、第2峰は昭和15年で、男子は第2峰が第1峰よりはるかに高く、女子は第1峰が第2峰より高い。しかして男子の第2峰の頂点は全年令階級中で当年令階級が最も高い。明治より大正年代は女子死亡率が男子より高いが、大正14年以降は男子死亡率が女子より高い。

6. 25～29才では死亡率上昇による第1峰は大正9年、第2峰は昭和22年で、男子は第2峰が第1峰よりはるかに高く、女子は第1峰が第2峰より高い。明治より大正年代は女子死亡率が男子より高いが、大正14年以降は男子死亡率が女子より高い。

7. 30～34才では死亡率上昇による第1峰は大正9年、第2峰は昭和22年で、第1峰より第2峰が高い。明治より大正年代は女子死亡率が男子より高いが、大正14年以降は男子死亡率が女子より高い。

8. 35～39才では死亡率上昇による第1峰は著明でなく明治36年より大正9年までつづき、第2峰は昭和22年で、第1峰より第2峰が高い。明治41年以外は男子死亡率が女子より終始高い。

9. 40～44才では死亡率上昇による第1峰は著明でなく明治36年より大正9年までつづき、第2峰は昭和22年で、男子は第1峰より第2峰が高く、女子は第1峰が第2峰より高い。しかして終始男子死亡率が女子より高い。

10. 45～49, 50～54, 55～59才では死亡率上昇による第1峰は明治32年より大正2年までつづき、第2峰は昭和22年より同25年までつづく。男子は第1峰より第2峰が高く、女子は第1峰が第2峰より高い。しかして終始男子死亡率が女子より高い。

11. 60才以上では死亡率上昇による第1峰は明治32年より大正2年までつづき、第2峰は昭和25年で、男子は第1峰より第2峰が高く、女子は第1峰が第2峰より

高い。しかして終始男子死亡率が女子より著明に高い。

以上の如く20～34才の大正14年以降、35～39才の明治41年以外、0～9才と40才以上では終始男子死亡率が女子より高く、20～34才の明治より大正9年までと、10～19才では終始女子死亡率が男子より高い。

0～14才および女子の15～29と40才以上では第1峰が第2峰より高く、30～39才および男子の15～29と40才以上では第2峰が第1峰より高い。しかして第2峰は青壮年階級では著明に高く、若年または老年令階級になるほど峰が低くなる。

第1峰は0～9才では明治41年に、10～34才では大正9年に、35～44才では明治36年より大正9年に、45才以上では明治32年より大正2年に現われ、第2峰は10～14才では昭和10年に、15～24才では昭和15年に、0～9と25～44才では昭和22年に、45～59才では昭和22年より同25年に、60才以上では昭和25年に現われる。すなわち若年または老年令階級になるほど第1峰は前年に、第2峰は後年に移動する。

II. 「呼吸器系の結核」年令階級別死亡率性比の相互比較

「呼吸器系の結核」年令階級別死亡率性比において、性比100の線をこえたことがあるが近年再び100以下に戻るもの、および100以下に位する0～24才を一括してaとし、性比100以下はわずかで、おおむね100の線をはるかにこえる25才以上を一括してbとした。

a. 0～24才

死亡率性比が比較的低い25才未満の階級において、0～4才は明治41年より昭和22年までは性比100より高く、かつ昭和5年までは25才未満の階級では最も高性比を示すが、昭和10年以降は20～24才の性比が急騰するのでこれより低く、戦後は100以下に戻る。

20～24才は大正9年までは100以下で、大正14年に100をこえるが、昭和15年を頂点として以後下降し、昭和30年に再び100以下となる。

5～9, 15～19才は近似の経過をとり、終始100以下でかつ0～4, 20～24才より低い。

10～14才は他の年令階級よりとくにはなれて低く、終始50以下で経過し、その昇降の幅も少ない。

b. 25才以上

死亡率性比がおおむね100以上に位する25才以上の年令階級のうちに、25～29, 30～34才は大正末期まで100以下で経過し、大正14年に始めて100をこえるが、以後は100以下に下降することはない。25～29, 30～34, 35～39, 40～44才の4階級は昇降の角度が近似し、年令階級の上昇に従って性比線が上位に位置する。また戦後に100以上にとどまるが下降線を示すのはこれら4階級のみである。

45～49, 50～54, 55～59才の3階級はいずれも終始

100 の線よりはるかに高く、おおむね角度近似の経過をとり、しかも高年令階級ほど高性比を示し、かつ戦後も上昇線を示す。45～49才はおおむね性比150以上を示し、50～54才では200の線に近く、55～59才では200前後で経過する。

60才以上では他の年令よりとくにはなれて高く、上昇角度はゆるやかであるが終始上昇つづけ、昭和10年以降は250の線を越える。

以上の如く「呼吸器系の結核」死亡において、社会的条件の影響を鋭敏に受けるのは青壮年で、とくに今次大戦の影響を男子青壮年が大きく受けた。戦後は社会的条件改善の影響を受けて全年令層ともに死亡は激減するが、その影響は若年令階級ほど早く現われ、同年令階級では女子の改善が男子より早い。高年令階級になるほど改善の現われはおそく小で、かつ高性比を示す。

稿を終るに臨み、恩師吉岡博人教授および諸岡妙子助教授の御懇篤なる御指導御校閲を感謝する。

参 考 文 献

- 1) 吉岡博人：日臨結核 4 218～224 (昭18)
- 2) 吉岡博人：総合医学 8 657～662 (昭26)
- 3) 吉岡博人：日医事新報 1489号 24～27 (昭27)
- 4) 諸岡妙子：東女医大誌 24 81～88 (昭29)
- 5) 諸岡妙子，妻 君代：東女医大誌 25 119～133 (昭30)
- 6) 吉岡博人他：日医事新報 1667号 22～27 (昭31)
- 7) 諸岡妙子，藤屋スエ：東女医大誌 29 180～201 (昭34)
- 8) 明石み代：東女医大誌 30 2284～2290 (昭35)
- 9) 明石み代：東女医大誌 30 2297～2310 (昭35)

付表 「呼吸器系の結核」性別年齢階級別死亡率(人口10万対)および死亡率性比{(男子死亡率/女子死亡率)×100}

年次	1899 1903 1908 1913 1920 1925 1930 1935 1940 1947 1950 1955													
	明治32 明治36 明治41 大正2 大正9 大正14 昭和5 昭和10 昭和15 昭和22 昭和25 昭和30													
0~4才	死亡率	総数	32.5	36.9	43.4	38.5	31.9	26.1	18.2	20.0	20.0	27.6	24.7	4.3
		男	34.6	36.0	45.1	40.8	33.0	28.8	20.4	20.4	21.3	28.2	24.0	4.3
		女	30.4	37.8	41.7	36.2	30.8	23.4	16.0	19.5	18.7	27.0	25.3	4.3
	死亡率性比	113.8	95.2	108.2	112.7	107.1	123.1	127.5	104.6	113.9	104.4	94.7	100.7	
5~9才	死亡率	総数	21.2	29.8	32.2	26.2	23.7	17.1	15.4	14.5	13.5	19.1	14.1	1.8
		男	16.0	20.4	21.7	18.5	17.5	12.8	11.5	12.1	11.2	16.7	11.7	1.8
		女	26.5	39.4	42.9	34.1	30.0	21.4	19.3	16.9	15.8	21.6	16.6	1.9
	死亡率性比	60.4	51.8	50.6	54.3	58.3	59.8	59.6	71.6	70.9	77.3	70.5	94.7	
10~14才	死亡率	総数	57.4	73.7	77.9	76.7	85.3	60.7	55.2	57.1	53.6	26.7	18.3	3.4
		男	28.5	35.3	37.2	37.1	56.0	31.1	29.5	29.8	30.4	17.6	11.2	2.2
		女	86.9	113.1	119.6	117.6	113.8	91.1	81.5	84.9	77.2	35.9	25.4	4.7
	死亡率性比	32.8	31.2	31.1	31.5	49.2	34.1	36.2	35.1	39.4	49.0	44.1	46.8	
15~19才	死亡率	総数	173.8	229.9	264.3	260.9	304.5	268.6	269.3	274.6	325.8	170.7	95.1	14.6
		男	138.3	180.3	202.1	200.1	249.1	226.4	234.7	238.6	314.9	152.9	78.9	11.9
		女	209.9	280.7	328.7	323.6	361.5	312.1	304.9	311.3	336.7	188.6	111.6	17.3
	死亡率性比	65.9	64.2	61.5	61.8	68.9	72.5	77.0	76.6	93.5	81.1	70.7	68.8	
20~24才	死亡率	総数	227.3	248.5	318.3	315.4	353.8	316.6	331.9	355.9	443.7	365.8	220.6	37.6
		男	217.9	247.7	298.7	300.8	347.9	317.6	336.0	373.9	573.4	410.3	225.4	35.1
		女	237.0	249.0	338.5	330.4	359.6	315.5	327.7	337.9	345.9	325.4	215.8	40.0
	死亡率性比	91.9	99.5	88.2	91.0	96.7	100.7	102.5	110.7	165.8	126.1	104.4	87.8	
25~29才	死亡率	総数	207.5	229.1	220.3	263.2	288.0	255.4	262.9	288.4	334.5	342.8	253.6	63.5
		男	193.9	199.4	161.6	244.8	276.2	256.7	269.9	312.9	390.8	413.5	280.3	64.9
		女	221.5	259.6	279.0	282.2	300.4	254.0	255.6	263.1	283.0	287.5	231.2	62.1
	死亡率性比	87.5	76.8	57.9	86.7	91.9	101.1	105.6	118.9	138.1	143.8	121.2	104.5	
30~34才	死亡率	総数	174.0	163.7	197.2	197.6	222.1	194.3	187.1	202.2	229.8	290.1	215.4	72.0
		男	171.0	182.5	182.9	190.0	220.2	196.6	198.7	224.0	268.2	363.1	247.5	78.9
		女	177.2	205.3	212.0	205.4	224.0	191.9	174.6	179.3	191.4	229.8	188.7	66.1
	死亡率性比	96.5	88.9	86.3	92.5	98.3	102.4	113.8	124.9	140.1	158.0	131.2	119.4	
35~39才	死亡率	総数	160.8	175.6	177.7	163.9	177.2	159.5	143.7	154.2	166.8	228.5	193.8	67.8
		男	169.3	176.6	174.2	169.6	181.2	169.7	161.9	175.2	198.8	298.5	236.3	80.0
		女	151.9	174.5	181.5	157.9	173.2	148.7	124.2	131.6	133.8	164.7	156.1	57.7
	死亡率性比	111.5	101.2	96.0	107.4	104.6	114.1	130.4	133.1	148.6	181.2	151.4	138.6	
40~44才	死亡率	総数	145.5	156.6	167.1	151.2	157.8	137.6	132.1	132.3	133.3	191.9	174.6	68.4
		男	164.2	171.2	183.6	167.7	171.9	158.0	154.7	159.2	161.4	248.6	223.7	87.2
		女	125.4	141.3	149.5	133.7	143.4	116.9	108.3	103.3	103.5	134.5	127.3	51.7
	死亡率性比	130.9	121.2	122.8	125.4	119.9	135.2	142.8	154.1	155.9	184.8	175.7	168.7	
45~49才	死亡率	総数	157.3	168.4	160.3	157.7	143.9	128.6	121.3	131.0	129.6	171.5	163.9	76.6
		男	188.2	199.4	184.4	186.2	169.5	155.7	153.8	163.0	163.0	225.5	212.6	102.3
		女	124.4	135.2	135.1	127.5	117.9	101.1	88.8	97.6	94.4	115.3	114.4	52.0
	死亡率性比	151.3	147.5	136.5	146.0	143.8	154.0	173.2	167.0	172.7	195.6	185.8	196.7	
50~54才	死亡率	総数	163.9	170.5	171.8	172.5	154.3	128.4	120.0	124.7	128.3	167.1	169.6	87.3
		男	202.7	207.9	202.1	210.0	191.6	163.2	151.7	162.1	166.5	217.2	220.7	119.3
		女	123.1	131.4	140.0	133.7	116.8	93.6	88.6	88.0	89.5	114.9	116.9	55.1
	死亡率性比	164.7	158.2	144.4	157.1	164.0	174.4	171.2	184.2	186.0	189.0	188.8	216.5	
55~59才	死亡率	総数	160.1	168.2	170.4	174.1	149.6	134.4	113.0	115.0	116.5	163.6	178.5	99.8
		男	201.2	214.2	212.2	218.5	197.6	177.1	151.3	155.5	157.8	213.9	237.0	136.9
		女	118.3	121.1	127.7	128.8	102.4	92.8	76.2	76.3	77.7	113.7	119.6	62.6
	死亡率性比	170.1	176.9	166.2	169.6	193.0	190.8	198.6	203.9	203.1	188.1	198.2	218.7	
60才以上	死亡率	総数	126.0	123.2	116.9	129.5	112.8	90.6	80.0	82.9	85.4	104.0	136.1	121.4
		男	168.8	163.8	157.9	175.9	158.0	129.9	117.9	125.3	125.1	157.8	202.8	178.0
		女	89.0	87.3	79.4	87.2	74.6	58.3	49.3	48.9	54.0	62.0	83.2	70.7
	死亡率性比	189.7	187.6	198.9	201.7	211.8	222.8	239.1	256.2	231.7	254.5	243.8	251.8	